株式会社DnD コラム — 2026.11.05 — 開発・技術

建設業バックオフィスDX調査、小規模企業の見積・請求デジタル化は21.4%どまり 受注から請求をシステムでつなぐ3ステップ

https://dnd-inc.jp/blog/construction-quote-billing-dx-2026.html

調査が示した数字

現場TECH「建設業バックオフィスDX実態調査・第一弾」（2026年9月25日公表）より。

企業規模	「70%以上デジタル化」の割合
小規模（1〜49人）	21.4%
大規模（300人以上）	64.2%

- 見積ツールのトップ：**Excel・スプレッドシート 42.3%**
- データが自動連携：わずか **13.0%**
- 障壁第1位：「取引先・現場ごとに異なるルール」**36.0%**
- 今後1〜3年以内のシステム検討：**44.0%**

自社確認7項目チェックリスト

#	確認項目	注意サイン
1	見積はどのツールで作っているか	Excelや手書きで転記が発生している

#	確認項目	注意サイン
2	見積の数値が請求書と自動連携しているか	連携していない場合、手入力のミスリスクがある
3	取引先ごとに異なるフォーマットに個別対応しているか	専用対応のファイルが乱立し、属人化が進む
4	受注後の請求書はどこから作るか	見積と別ツールなら金額ズレリスク
5	請求書ごとの入金確認は手動か	手動の場合、未入金の見落としが起きやすい
6	見積〜請求を管理できる人は何人か	1人だけの場合は属人化のリスクが高い
7	月末の請求処理にかかる時間はどれくらいか	10時間超なら自動化の余地がある

受注から請求をシステムでつなぐ3ステップ

ステップ1：まず1業務・1取引先から始める

最も処理量の多い取引先1社の見積と受注管理に絞り、Excelと2〜3ヶ月並行運用しながら移行。担当者1人が使いこなせるスコープからスタートする。

ステップ2：見積・受注・請求をシステムでつなぐ

見積で入力した品番・数量・単価をそのまま請求書に引き継ぐ連携を実装。再入力ゼロ・金額自動一致を実現。取引先向けのExcel/PDFエクスポートも対応できるため、取引先側への変更依頼なしに移行が進められる。

ステップ3：入金確認・リマインドを自動化する

銀行入金データと請求書を突き合わせて未入金を検出、期日前に担当者へ通知。条件のシステム登録で、例外を除いて自動消込・確認が完結する。

株式会社DnDにできること

- **見積・受注・請求管理システムの開発**：Excelデータの移行から取引先書式出力・入金消込まで一気通貫で構築
- **既存データのDB移行**：長年Excelに蓄積されたマスタ・取引履歴を新システムへインポート
- **AI-OCRによる帳票読み取り自動化**：注文書・納品書をAI-OCRで読み取り、受注管理システムへ自動連携

ご相談・お見積りは無料 → https://dnd-inc.jp/contact.html

出典：合同会社ソウルグッド（現場TECH）「建設業バックオフィスDX実態調査・第一弾」プレスリリース（2026年9月25日）
https://kensetsu.gemba-tech.jp/research/survey-backofficedx-01/